学校法人昭徳学園

令和４年度　事業報告

学校法人　昭徳学園
九州動物学院

令和５年３月

Ⅰ　概要

本学院は平成16年に創立されました。当初、無認可校からはじまった当学院は、創立13年目、平成28年4月から学校法人として認可された専修学校として新しい歩みをはじめました。

本学院の教育は生命の尊厳を第一とし、動物の保健・医療・福祉に関する専門知識および技術の修得を目標に掲げています。

教育水準の向上や活性化に努めるとともに、その社会的な責任を果たし、与えられた使命を達成するために、自らの責任において教育研究活動や管理運営等について自己点検評価、学校関係者評価等をとおして高位平準化に努めてきたところです。

このような中、令和元年6月に「愛玩動物看護師法」が成立し、動物看護学科は令和4年より同法の施行に伴い、本学院愛玩動物看護師の養成を目的に3年制となりした。令和4年4月1日に本学院は国家試験受験可能となる養成所と指定されました。今年度、新型コロナ感染症対応も含め、学院体制の充実等様々な課題について取組みましたのでご報告いたします。

Ⅱ　基本的運営方針

〈　基 本 理 念　〉

生命を尊重し、動物と人間社会に真の絆を築き、
動物の保健・医療・福祉・愛護および適正飼養の分野に貢献できる人材の育成

〈　教 育 目 標　〉

1　命の尊厳を基盤に、動物の権利を尊重し、かつ豊かな人間性を養う。
2　動物の保健・医療・福祉・愛護および適正飼養にかかわる専門職としての知識、技術および態度を養う。
3　広い視野に立ち、生涯を通じ課題探求と問題解決力を養う。

〈　院　　訓　〉

敬　天　尊　命

Ⅲ　令和4年度の重点目標及び計画と進捗状況及び実績

1　教育の質の向上

目標　文部科学大臣による「職業実践専門課程」全課程の認定取得を目指し、教育の向上を図る。

実績　令和3年4月15日「動物看護学科」「動物管理学科」ともに文科大臣の認定を受けた。

2　教育支援の充実

目標　引き続き高等教育の修学支援制度対象校としての認定を受け、教育機会の向上を図る。併せて奨学金制度の積極的な利用推進

実績　令和4年度修学支援更新決定
令和4年度修学支援実績1年生10名、2年生9名の支援実施
奨学金制度利用実績1年16名、2年29名が利用

3　学校運営の点検・評価・再構築

目標　自己点検評価、学校関係者評価制度の結果に基づき、学校運営の向上を図る。
実績　令和４年自己点検評価実施
令和４年９月 21 日学校関係者評価実施　公表予定

4　基本理念、教育目標の実効性の担保
目標　「卒業認定・学位授与」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラムポリシー）及び「入学者受け入れの方針」（アドミッションポリシー）を策定し、より具体的な教育実践につなげる。
実績　令和３年４月１日３つのポリシーを定め、ホームページに掲載し学生募集等で案内活動
Ⅵに記載

5　学生募集の強化
目標　安定した学生数の確保が可能となるよう組織と広報手法の改善を行い、強化を図る。
実績　令和 4 年度は高等学校との連携強化を図り、入試制度などについて高校側と協議を重ねた。高等学校長推薦枠、自己推薦枠、一般入試と多様な出願希望に沿った入試を行った。

6　国際交流の推進
目標　海外の動物に関わる大学、専門学校に関して学生職員間の相互交流や共同研究をとおして国際交流ならびに獣医療及び動物福祉の発展に寄与する。
実績　令和４年１月４日、獣医学部を擁するインドネシア国立ウダヤナ大学（バリ州）と九州動物学院は獣医療に関する共同研究や学生職員間の相互交流の推進等に関してMOU（覚書）を締結した。

Ⅳ　学院運営体制

⑴ 学校法人昭徳学園役員

理事	氏　名	評議員	氏　名
理事長	徳田　昭彦	評議員	徳田　昭彦
理事	牛島　浩	評議員	山田　進二
理事	山田　進二	評議員	須崎　晋一
理事	須崎　晋一	評議員	本田　公三
理事	本田　公三	評議員	芝田　猛
監事	本山　桂子	評議員	森下　久男
監事	中原　孝	評議員	大川　恵子
		評議員	白石　史絵
		評議員	吉川　文香
		評議員	米田　順子
		評議員	前田　しのぶ

専任教員・職員・講師一覧

１．専任教員

氏　名	職　務	担　当　科　目
德田 昭彦	学院長	講話、動物外科看護学実習Ⅰ
山田 進二	顧問	講話
本田 公三	副学院長	生命倫理、動物福祉、比較動物学、愛玩動物学
髙木 和弘	教頭	掃除学、学年活動、牧場実習、プレゼンテーションスキル
工藤 正則	主幹	
津田 圭子	主幹	動物栄養学、実験動物学
西島 信彦	学生課長	就職支援、ライセンス対策、
林 典子	事務長	愛玩動物飼養管理学、人と動物の関係学、看護職支援、動物介在活動、動物生活環境学
井上 竜一	教務課主任	
宮村　信也	教務課主任	
紫垣 知江	学生課主任	就職支援
橋本 沙耶	教務課主事	トリミング実習
髙橋 理美	事務局主事	

２．講　師

氏　名	担　当　科　目
池上 美紀	動物内科看護学、動物繁殖学、動物外科看護学、動物臨床看護学各論
石井 崇志	動物臨床検査学、動物の疼痛と福祉
石井 実生	動物外科看護学、動物感染症学（寄生虫）
今村 絵里花	トリミング実習
筌場 孝一	公衆衛生学、動物看護関連法規、動物愛護・適正飼養関連法規、適正飼養指導論
大川 恵子	動物看護総合実習、動物愛護・適正飼養実習
大塚 敦子	動物行動学Ⅰ、愛玩動物学（犬猫学）、動物理学療法学、動物理学療法学実習
小山 房子	パソコン学
北島 眞実子	動物形態機能学（概論・形態機能、比較解剖学、血液学）、動物臨床看護学各論（皮膚疾患）、動物形態機能学実習
木下 あゆみ	動物臨床看護学各論
合志 潤子	動物看護総合実習、動物臨床看護学実習
芝田　猛	動物形態機能学（免疫学）
白石 史絵	動物臨床看護学実習、動物医療コミュニケーション、形態機能学実習
田嶋 義高	分子遺伝子学入門
中嶋 友美	訓練学Ⅰ
中村 あゆみ	動物臨床検査学実習
仁木 隆博	動物薬理学、動物感染症学（病原体・衛生管理）
西川　文	動物臨床看護学各論（歯科）
兵藤 陽子	英会話
藤堂 恵子	販売学
古田 祥史	動物感染症学（総論・微生物学）、動物病理学
前田 しのぶ	ペットアロママッサージⅠ・Ⅱ
増子 元美	動物臨床看護学各論（幼齢・老齢動物管理）、高齢動物看護学

片岡 玖美	訓練学Ⅱ
山中 彩紗子	動物行動学Ⅱ、訓練学Ⅲ
横山 敏治	動物臨床検査学実習Ⅱ、動物外科看護実習Ⅱ
吉川 文香	動物内科看護学実習
米田 順子	動物看護学概論、グリーフケア概論

Ｖ新型コロナウイルス感染症対策について

2020 年 1 月 16 日国内初感染確認後、熊本県から新型コロナ感染症拡大防止の対策要請を受け、学院では、様々な感染症対策を講ずるため、4 月に「新型コロナウイルス感染症対策マニュアル」を策定し、竜之介グループ全体で対応を協議するため「新型コロナウイルス感染症対策会議」を立ち上げ、現在（2023 年 5 月）まで 75 回実施している。

1　入学式・卒業式

年度	入学式	卒業式	場所	参加者		
令和元（2019）	2019/4/7		森都心	通常どおり（来賓、外部講師等）		
		2020/3/11	学院	学生	教職員	
令和２（2020）	2020/4/7		学院	学生	教職員	
		2021/3/10	学院	学生	教職員	
令和３（2021）	2021/4/7		学院	学生	教職員	
		2022/3/11	森都心	学生	教職員	保護者１名
令和４（2022）	2022/4/7		森都心	学生	教職員	保護者１名
		2023/3/13	森都心	学生	教職員	保護者複数可
令和５（2023）	2022/4/7		森都心	学生	教職員	保護者複数可

2　授業

年度	決定日	休校期間	備考
令和２（2020）	4/17	4/11 から当面の期間	4/16 緊急事態宣言
	4/24	５月末まで	県市教育委員会小中高の休校延長通知
令和３（2021）	8/27		学生陽性者１名
	5/12		学生陽性者１名
	1/16	1/17～1/21	学生陽性者２名
	1/29	１年 1/31～２/9 ２年 1/31～2/9	学生陽性者５名

3　学校行事

年度	海外研修	代替合宿研修	校外学習	レクレーション	学院祭
令和（2020）	中止	3/29～31 美里	中止	中止	中止
令和（2021）	中止	10/7～12 阿蘇	中止	前期中止/バレー等	実施
令和（2022）	中止	11/7～12 阿蘇	大牟田市動物園	実施/バレー、ドッジボール	実施

4　理事会・評議員会・講師会議

2020 年 3 月実施予定の理事会・評議員会は中止とした。

Ⅵ事業別報告

1　教務関係

①　学生数　1年生58名　動物看護学科41名
　　動物管理学科17名（退学1）
　　2年生46名　動物看護学科36名（退学1）
　　動物管理学科10名

②　試験　1、2学年前後期試験を実施

③　資格試験

・愛玩動物看護師国家試験 35名受験 22名合格（合格率62.9%、昨年度統一認定79.4%）

・PSGトリマーB級	3名受験	3名合	（100%　100%）
・PSGトリマーC級	18名受験	17名合格	（94.4%　94.7%）
・愛玩動物飼養管理士1級	5名受験	5名合格	（100%　90.9%
・愛玩動物飼養管理士2級	57名受験	49名合格	（86.0%　93.8%）

・その他のライセンス
日本アロマコーディネーター、家庭犬トレーニングインストラクター、コミュニケーション検定初級、ドッグ検定2級、ドッグケアアドバイザー検定、ドッグトレーニングアドバイザー検定、犬の食養生検定等

④　インターンシップ
・50か所以上のインターンシップ先（動物病院　トリミングサロン　ペットショップその他）で実習を実施。2年生90%以上がインターンシップ先で就職内定

⑤　飼育動物
・犬　20頭、猫 15 頭、県愛語センター猫33、エキゾチック 64頭（ハト5、カラス8、ニワトリ3、イグアナ1、ウズラ12、カメ28、クジャク1、ニホンザル1、マウス2、ウサギ2、ワニガメ1）計　132頭

⑥　保護猫受入れ譲渡活動（R4.4.1～R5.3.15）
・受入頭数　27頭、譲渡頭数　18頭

⑦　・動物介在活動AAA　新型コロナ感染症対策のため中止
・動物介在教育AAE　新型コロナ感染症対策のため中止
・動物介在療法AAT　新型コロナ感染症対策のため中止

2　学生募集

⑧　オープンキャンパス　13回実施
参加者生徒延べ267名（実数191名、昨年参加者249名、7.2%増）保護者131名
・県外からの参加者が増え、入学者増につながっている。

⑨　プレスクール　4回実施、対象2023年度入学者

⑩　九動進路説明会令和4年6月21日14：004F（西高、中央、熊工、慶誠、熊農、菊農、翔陽7校7名参加）欠席校2校3名
・内容：概要、3年制動物看護学科、就職状況について

⑪　高校学校ガイダンスに出席（九動来校含）
参加者数296名

⑫　資料請求者　2031件（昨年度比16%増、昨年度1751件）

2 出願者と入学者選考

	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度	令和元年度
AO	―	―	―	33 名
高等学校長推薦	50	50	47	5 名
自己推薦	11	11	13	10 名
一般	4	4	1	6 名
出願合計	66 名	65 名	61 名	54 名
合格者	59 名（5 不合格、2 辞退）	59 名（4 不合格、2 辞退）	55 名（4 不合格、2 辞退）	54 名

3 就職状況

2 年生（40 名）就職内定者（2023.3.8 現在）
動物病院 32、ペットショップ 2、ブリーダー1、牧場 1、熊本市動植物園 2、熊本県動物愛護センター1、水族館 1

4　学院行事

① 海外研修　中止

② 校外研修　6 月 7 日（火）大牟田市動物園「環境エンリッチメント」「ハズバンダリートレーニング」

③ 校外合宿研修 1 年生 59 名全員参加

・日　程　令和 4 年 11 月 7 日（月）～11 月 2 日（土）5 泊 6 日

・国立阿蘇青少年交流の家、南小国町農家にファームステイ

・引率　髙木、津田、宮村、工藤、西島、井上、紫垣、髙橋、橋本、後藤、島本

④ レクリエーション

5 月 18 日実施、ドッジボール、バレーボール

11 月 18 日実施、バレーボール、リレー

⑤ 九動祭　12 月 6 日（日）10：00～16：00　来場者 238 名　実行委員長 2 年森なみか

⑥ 竜之介・九動合同動物慰霊祭　12 月 6 日（日）9：00 学院 4F

5　職務分担

徳田竜之介　学院長
山田進二　顧問
本田公三　副学院長
髙木弘和　教頭、2 年担任
津田圭子　主幹
工藤正則　主幹
森元和昭　主幹（令和４年８月１日～）
西島信彦　学生課長
紫垣知江　学生課主事
井上竜一　教務課主任
宮村信也　主任、2 年担任
橋本沙耶　教務課主事
後藤翔太　教務課
林典子　事務長
髙橋理美　事務局主事

Ⅶ　九州動物学院　３つのポリシー

本学院の教育理念、教育目標を実現するために、次の３つのポリシーを定める。

Ⅰアドミッションポリシー（Admission Policy 入学者受け入れ方針）

本学の基本理念、教育目標、ディプローマ及びカリキュラムポリシーの目的達成のために以下の入学者を求める。

1 動物を愛し、その生命を尊重できる者

2 動物の保健、医療、福祉、愛語および適正飼養分野で活躍するために必要な知識と技術を主体的に学ぶ意欲のある者

3 動物医療者あるいは動物管理者としての使命感と倫理観をそなえ、社会に貢献したい意志のある者

4 チーム医療を担える協調性をもち、動物と飼い主に対しおもいやりをもち、信頼関係を構築できるコミュニケーション能力をもつ者

5 本学のカリキュラムを理解し積極的に挑戦し、困難に立ちむかい、問題を解決する自己能力の向上に努める意欲のある者

Ⅱカリキュラムポリシー（Curriculum Policy 教育編成・実施の方針）

学院の基本理念である生命を尊重し、動物と人間社会に真の絆をきづき、動物の保健、衛生、福祉の分野に貢献することを目標に基礎動物学、基礎動物看護学、臨床動物看護学、愛護・適正飼養学、実習分野の科目を体系的に授業展開し、ディプローマポリシーの達成をはかる。

1 動物看護学と管理学を基礎的体系的に理解し、動物看護と管理の学びを深めてゆく。

2 動物看護と管理の実践で基本的な能力を身につけ、専門職としての基盤である対動物、対人支援能力を育む。

3 実習を通じ幅広い看護観と管理観を養い、段階的反復的な実習で実践力を養成する。

4 動物看護と管理の役割を理解し、連携、協働する教育を課外活動と科目に連動させて編成している。

Ⅲディプローマ・ポリシー（Diploma Policy 卒業認定および専門士の授与に関する方針）

本学院は基本理念、教育目標に定める人材を養成するため所定の期間在学し、定められた専門分野に関する知識、技能、教養力を身につけ、所定の単位を習得する。学院の定める試験に合格し、動物の保健、医療、福祉、愛語および適正飼養の向上に寄与することができる学生に卒業を認定し専門士の称号を授与する。

Ⅷ　自己点検評価並びに学校点検評価のとりまとめ

１教育理念・目標

（１）取組状況

・本学院では、基本理念で人材像を、教育方針で必要な学力や資質、能力について具体化している。

・本学院の基本理念は年度当初全ての学生を対象に、「学生便覧」（学則、修学、就職、学生生活、学生規定を取りまとめたもの）の説明を学院長が行う。併せて便覧は全ての講師、教職員に配布し周知している。

（２）課題

・学院の基本理念、教育方針は明確に定められ、学生便覧等に明文化されているものの、教職員

間の理念・育成人材像が共有されていない、認知度が低い、理解しにくいなどの評価
・一般向けに学校の特徴などを理解しやすいものにする。
・教職員間の理念の共有化がなくそれぞれに学生対応している。

（３）今後の改善策

・学生職員間の意識を高め、共通認識を図るための会議の必要性、学院のアピールの方法を検討
・学院の理念・人材育成像を基本にした問題解決策を図る。

２学校運営

（１）取組状況

・学校運営方針案を評議員会で検討し理事会で決定後、全職員に会議の席で周知している。
・組織の意思決定は職員意見を集約し学院長が決定する。
・学生便覧等により学務及び学院行事に係る様々な意思決定を、職員総意のもとで行うことが可能である。
・情報公開についてはSNSを利用した広報展開している。
・ホームページ、九動通信、学院パンフレットで情報発信している。
・コンプライアンス体制としては規則、規定で明文化し運用している。

（２）課題

・情報の共有、公開情報が少ない、業界の社会保険制度の充実
・体制は整ってきているが、細かいルール見直しが必要
・教育内容に比べ情報公開が遅れている。
・業界への社会保険の充実のための啓発活動の実施
・組織の意思決定が曖昧のまま情報公開がされている。

（３）今後の改善策

・情報の共有とライン強化による組織的な対応
・問題点の洗い出しと規定や体制を整備する。
・動物業界への理解を求める社会への啓発活動
・SNS等情報発信は一部ではなく全員で記事を考えるシステムの確立
・組織の見直しと校務分掌を把握し役割分担を明確に。
・学校管理規則に則り、文書管理、記録を残す。
・コンプライアンス、ハラスメント等責任者を置く。

３教育活動

（１） 取組状況

・動物看護学科の3年制移行と養成所指定にともない、養成所指定のカリキュラムとした。
・年２回の外部講師も含めた全講師会議を開催し、シラバス、学院歴、年間行事、時間割を検討している。
・成績評定単位取得については学生便覧の学則、学生マニュアルの学生規定、履修規定、試験規定に明文化し、運用している。
・資格取得は必要性、重要性を授業でも行い、必要な研修については職員が積極的に引率指導している。
・本学院の特色ある教育課程の活動として、動物介在活動、インターンシップ、校外学習、海外研修、動物飼育、講話等がある。学生はこれらの活動をとおして社会的な視野を広め、卒業後の進路決定の際の一助としている。
・教育課程以外の活動として、ボランティア団体「Box竜之介」が毎年2月、11月に実施する野

良猫不妊手術キャンペーン（TNR）活動、熊本市動植物園が難病や障害を持った子どもたちと家族を閉園後に招待する「ドリームナイト・アット・ザ・ズー」、子猫を離乳期まで育てるミルクボランティアと里親探し活動、熊本城マラソンボランティア等命の尊さ、人のつながりの大切さを学ぶ機会として積極的に参加している。

（２）課題

・特に動物管理学科管理コースは魚類学等特色あるカリキュラムの構築が必要
・資格取得への学生間の意識格差があり、情報も不足している。
・学生が納得いく授業に取り組む。
・外部講師へ十分な周知と理解。

（３）今後の改善策

・講師間の情報交換をこまめに行うとともに、様々な講師の意見を聴く。
・養成所移行に伴う特色あるカリキュラムには検討委員会等が必要
・評価体制を整備して、授業参観・研究授業等を実行する。
・業界に求められる人材像については校内ガイダンス等を実施する。

４教育成果

（１）取組状況

・インターンシップ制度の充実のため動物病院、ペットショップ、動物園、水族館、牧場関係のみならず、動物関連行政、動物保護団体等様々な機会を利用し活動領域を広げている。
・資格取得については、本学院では１年次にライセンス対策としてコマを設けており、資格の必要性、試験案内等を行い、受験の際は引率するなどきめ細やかな対応を行っている。
・特に業界関係事業所には、動物愛護の重要性への認識の底上げのためにも、待遇改善を機会あるごとに要望している。
・卒業生へは、特に学院飼育動物の死亡等があった場合、連絡網をとおして周知する。その際近況を聴取している。

（２）課題

・卒業後の動向把握がしにくい。
・勉学や意識の低下などででる退学者を減らす。
・退学者は毎年でている。退学者の問題は入学選考のありかたにも関わるため更なる検討が必要
・県外就職の卒業生の状況把握は困難
・卒業後の継続率や離職率がデータ化されていない。

（３）今後の改善策

・卒業生の再就職支援ができる学校づくり。
・学生とのコミュニケーションを大事にし、学生の悩みを軽減する
・入学時のより詳しい審査・議論が必要
・卒業生の状況把握には同窓会組織の整備が必要。九動通信の卒業生への送付や同窓会懇親会等のケア・アクションも必要
・体だけでなく心のケアもしながら学生生活を充実させる。
・卒業後の状況をデータ化。評価は勤務先の聞き取りを行う。

５学生支援

（１）取組状況

・卒業生の就職先事業所からの評価は高い。これは、動物病院と一体化ししている本学院

の最大の特徴を活かした臨床現場における実践教育の成果と推察。
・会社訪問時に待遇の改善を要望も行っている。
・学生相談（学業、課外活動、生活等）については担任制度による細やかな対応を行っている。奨学金の利用等の際は、学生保護者とも綿密な協議を行っている。

（２）課題

・就職支援体制は就職させる意識付けにも繋がるが弱い。
・学生寮・特待生制度が無い。
・求人動向を周知できる体制
・問題のある学生保護者のみ対症療法的な連携。問題のない保護者とはほとんど関わらない。
・カリキュラムに就職支援と個人面談が組み込まれている。担任による個人面談。バイト、不動産紹介も適切
・健康診断は学院だけではないので時期が遅い。
・学生一人一人の生活状況の把握が不十分
・就職支援相談は見直しが必要。経済的な支援は検討課題。遅刻、休みがちな学生の保護者とは積極的に関わる必要がある。

（３）今後の改善策

・就職は最終ゴールなので求人票を学生の目に留まるところに置く。
・保護者会開催は学生へのケアを知る機会となり有効。学生指導の効果も上がり、口コミ等の評判も上がる。
・学生の異変を感じたら積極的に面談、細やかな対応のため家庭訪問を実施する。
・学生相談を校務分掌に入れる。

６教育環境

（１）取組状況

・施設・設備については必要に応じて補修、購入等を行い対応している。
・備品管理台帳に基づき管理・点検している。
・防災については、各フロアの責任者を決めて、毎年１回消防訓練を行っている。
・平成 28 年熊本地震の際は、停電、断水、備品類の倒壊等があったものの、停電は自家発電機で復旧し、教室は動物同伴避難所として被災者に開放（4/15～5/7）した。学生職員の連携で避難者（延べ人 1118 人、動物 687 頭）の対応から支援物資（ダンボール箱 4000 箱相当）の仕分け等様々な対応を行った。
・令和４年度は熊本市との「ペット同伴非難に関する協定書」の締結後、初となるペット同伴避難所の開設を２回行った。（Ⅷ章で報告）

（２）課題

・授業で使用する機材が足りない。
・動物病院の併設という類を見ない実践的な教育環境であるが、顕微鏡等の実習機材、薬品等が十分でない。
・校外学習・インターンシップのシステムは確立しているが、新たな訪問先実習先の開拓も必要。
・２年続くイギリスへの海外研修も内容の再検討が必要
・医療機器に一部整備不足
・図書の充実

（３）今後の改善策

・不足しているもののリストアップ、コストを考えながら揃える。
・予算には必要最低限の実習器具・薬品等を反映させる。

・資料室の整備、図書室の整備
・校外学習の訪問先は教務で検討
・新規のインターンシップ受入先は講師や特別講師の情報や助言のもと長期休暇等を利用し職員全員で巡回する。
・動物病院で実習対応、整備必要
・海外研修、インターンシップは成果発表の場が必要、記録の保存

７学生募集と受入れ

（１）取組状況

・学生募集においては、高校訪問時に高校の担当の先生等（進路、担任）本学院の特色、入学から就職に至るまでの学生生活、学費、奨学金等を学院パンフレット、入学募集要項、就職実績一覧の他、九動通信、オープンキャンパス情報、等活動案内資料を用いた丁寧な案内活動を行っている。
・高校単独の個別進路ガイダンス、業者主催の地域の進路ガイダンスにも積極的に参加し、本学院の特色を資料等により正確に伝えている。
・入学選考についても本学院入学者選考実施要領に基づき、公正な審査を行っている。

（２）課題

・募集要項は、学生、保護者に十分伝わっているか第三者による評価が必要
・入学選考に関しては高校側の総体としての意向に留意

（３）今後の改善策

・学生募集の担当を動かさない。
・入学選考に関する書類の整備が急務。保護者等による情報開示の請求を想定する。
・入学選考を「高等学校長推薦」、「自己推薦」、「一般」の３種とし、希望する選考の選択の幅を維持

８法令等の遵守

（１）取組状況

・個人情報については、学生便覧の中で、個人情報保護方針として記載し、全学生全職員に周知している。
・自己点検評価については、今後学内外に情報共有し改善に向けて職員全員で進めていきたい。

（２）課題

・個人情報管理・保護は徹底。
・データの保存状態がよくない。

（３）今後の改善策

・再評価が必要
・自己点検評価を前期後期で行う
・学校評価のシステムを利用し教育理念・教育目標を理解して自己点検・自己評価を行う。

９社会貢献

（１）取組状況

・社会貢献活動として、ボランティア団体「Box 竜之介」が毎年２月、11 月に実施する野良猫不妊手術キャンペーン（TNR）活動、熊本市動植物園が難病や障害を持った子どもたちと家族を閉園後に招待する「ドリームナイト・アット・ザ・ズー・インクマモト」、子猫を離乳期まで育てるミルクボランティアと里親探し活動、熊本城マラソンボランティア等命の尊さ、人のつな

がりの大切さを学ぶ機会として積極的に参加している。

（２）課題

・学生に積極性を身につける

・動物介在活動、TNR 活動への学生参加は推奨される。介在活動へは特定の教職員の参加に留まる。社会貢献では教室を利用した各種セミナーの実施、熊本地震の際の同伴避難所としての教室の提供など実施

（３）今後の改善策

・職員も一緒にボランティア活動に取り組みボランティアの良さを学ぶ。

・動物介在活動への教職員の参加を呼びかける。

Ⅸ　ペット同伴避難所の開設

① 台風 11 号接近に伴う同伴避難所の開設

・開設期間：令和 4 年 9 月 5 日（月）13 時～9 月 6 日（火）9 時 10 分

・開設場所：九州動物学院 3 階(1、2 年生教室、実習室、ラウンジ

・避難者　：2 名とトイプードル 2 頭

・取材　　：RKK ゲツキン

② 台風 14 号接近に伴う同伴避難所開設経過

・開設期間：令和 4 年 9 月 18 日（日）14 時 30 分～9 月 19 日（月）15 時 15 分

・開設場所：九州動物学院 3 階

・避難者　：35 世帯 69 人、犬 33、猫 23

・取材　　：NHK、KAB

・その他　：アンケート調査実施